



厚真中学校 1年
Vol.30 ^{いけだ}池田 ^{こね}心音さん

呼吸を整えた直後、全身を使って宙に舞う玉と十字状の剣を自在に操りました。4年前、指導者のパフォーマンスに魅せられて虜になったけん玉。趣味が高じて、2年連続で世界大会に出場するまでに成長しました。「難しい技が決まった時の達成感が魅力です」。けん玉を通じて、自分磨きに挑む池田さんを訪ねて話を聞きました。

けん玉を通じて自分磨き

厚真けん玉クラブに所属しています。クラブのモットーは「泣かない、人に優しくする」。思いやりや協調性などを養う場として、幅広い世代の町民に親しまれています。総合福祉センターが主な練習会場で、「お姉ちゃん」と慕ってくる子どもたちに優しく接しながら、「上手にできたね」などと声を掛けて子どもたちのやる気を引き出します。「人前で話すことは、あまり得意ではありません」と控えめですが、けん玉を持つと目を輝かせながら黙々と練習に励み、額には汗がにじんでいます。

世界12の国と地域の2〜84歳の史上最多の725人が参加した世界大会「ウッドワンけん玉ワールドカップ2022」（広島県廿日市市）。今年は、7月30日に予選、31日に決勝が行われました。池田さんは、上位40人だけが出場できる決勝を目指し全力を尽くしましたが、残念ながら予選敗退。競技時間がカウントダウンされるプレッシャーの中、序盤こそ緊張から失敗もありましたが、手に持った玉の穴に剣先を2回刺す「はねけん」という難易度の高い技を成功させて力を出し切りました。

学校祭恒例の壁新聞では初めてコラムを担当し、厚真けん玉クラブについて書きました。人間関係や努力目標の大切さに触れ、「打ち込める物を見つけて、学校生活を過ごしませんか」と結びました。外部審査による壁新聞コンクールで、技能賞に選ばれました。

厚真町の印象を聞いてみました。間髪入れず「子どもに優しいまちです」と答えが返ってきました。登下校時の見守りや道ですれ違う時に「気を付けて帰ってね」など優しく声を掛けてくれるなど、気さくな人が多いこの町に誇りを感じています。

将来の夢や目標はまだ模索中ですが、「人への優しさ」は貫くことと決めています。